

## 地理歴史科・公民科（公共）学習指導案

1 単元名 政治参加と民主政治の課題  
この単元は、「2 内容」の「B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」の「アの(イ)」に該当する。

### 2 単元目標

- (1) 政治参加についての知識を身に付け、その意義を理解する。
- (2) 政治参加に関する社会的事象について、資料から読み取りまとめる技能を身に付ける。
- (3) 政治参加に関する社会的事象について、多面的・多角的に考察し、論理的に表現する。
- (4) 民主的な政治の在り方について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

### 3 単元計画(全体4時間)

#### (1) 指導計画

- ・選挙の意義と仕組み 1時間
- ・政党政治 1時間
- ・世論の形成と民主政治の課題 2時間（本時1 / 2時間）

#### (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治参加についての知識を身に付け、その意義を理解している。</li> <li>・政治参加に関する社会的事象について、資料から読み取りまとめる技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治参加に関する社会的事象について多面的・多角的に考察し、論理的に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民主的な政治の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>

#### (3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

時 限	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第 1 時	【学習課題】<単元を貫く問い> 「なぜ政治参加が重要なのか。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ねらい】公正な選挙が民主主義・国民主権を支えていることに気づき、投票率の低下や政治的無関心などの課題を解決するための見通しを立てる。</li> <li>・さまざまな選挙制度とその特徴を理解する。</li> </ul>	●			<ul style="list-style-type: none"> <li>(B) 特徴を表にまとめることができる。</li> <li>(C) 具体例を挙げつつ、個別に説明するなどの支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートにまとめさせる表を基に評価する。</li> </ul>
	【学習課題】<問い>「なぜ多様な選挙制度が取り入れられているのか。」						
第 2 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政党政治</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ねらい】政党政治について考察し、普通選挙や表現の自由に基づいて、多様な意見が交わされることが重要であることに気付く。</li> </ul>					

時 限	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
						(B) 政党政治が機能するために必要なものとして、選挙や表現の自由を挙げることができる。 (C) 国民主権について具体的に説明するなどの支援を行う。	・生徒間の発言や発表を基に評価する。
第 3 時	・世論の形成と民主政治の課題  【学習課題】〈問い〉「なぜ報道の多様性が重要なのか。」	【ねらい】報道の自由について考え、その意義を論理的に記述する。  ・協働学習を通して、メディアによって異なる主張があることを理解し、報道の自由の重要性を考察・記述する。			○	5 (1) 参照	・ワークシート④の記述を基に評価する。
	・世論の形成と民主政治の課題  【学習課題】〈単元を貫く問い〉「なぜ政治参加が重要なのか。」	【ねらい】〈単元を貫く問い〉に立ち戻り、多様な意見を持った民衆が選挙や世論の形成を通じて政治にかかわることで、民主的な社会が維持されることを考察する。 ・世論の持つ影響力や、マスメディアやSNSなどを通じて形成されること、またその注意点を理解する。  ・民主的な社会の維持には国民の政治参加が必要であることに気付く。			○	5 (2) 参照  5 (3) 参照	・学習成果を統合・活用するテストを行い、知識・主体的態度を評価する。  ・ノートの記述を基に評価する。

#### 4 本時の指導と評価の計画

##### (1) 本時の目標

ア ピアラーディング<sup>(※)</sup>により二社の新聞記事の内容を読み取り、違いがあることを理解する。  
イ アを理解した上で、自分の考えを論理的に記述する。

※ ピアラーディング……学習者同士が助け合いながら問題解決を行い、テキストを理解していく活動で、読みの結果ではなく過程を仲間とともに学ぶもの。本時では、個人が読んだ内容を対話的に共有させ、その理解を深める目的で取り入れている。

##### (2) 本時の展開

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 (7分)	・テーマ 「オリンピックに関する新聞記事から、報道の多様性について考える。」	・オリンピックの意義について考え、発表する。 ・日本の「報道の自由度」を確認する。	・予め班分け（原則4人）をしておく。 ・オリンピックの意義について発問する。 ・オリンピックと政治や経済との関係を示す。 ・本日のテーマを示し、ワークシートを配布する。

展開1 (15分)	・記事の内容の読み取り	・班ごとにワークAまたはワークBどちらか一方の新聞記事を読み、その内容をまとめ、記述する。(協働①)	・本時の評価規準について説明する ・班長・計時・記録など、班での役割を与える。 ・班で話し合いをさせる前に、個人で考えさせる時間をとる。
展開2 (20分)	・ピアリーディングによる記事の比較  ・記事の比較から、自分の考えを記述  ・マスメディアによって異なる主張がなされていることの意味を考える	・班をシャッフルし、自分が読んだ記事の内容を、それぞれ読んでいない相手に説明し、二つの記事の内容を理解、比較する。(協働②)  ・二つの記事の違いから、自分の考えを記述する。 ・班内で発表し、相互評価させる。 ・これまでの学習内容や本時の取組を踏まえ記述する。	・班分けを指示する。班での役割を与える。 ・まとめた内容を相手に見せるのではなく、口頭で説明させる。  ・双方の内容を参考に、論理的な記述をさせる。 ○ワークシート④【思考・判断・表現】
まとめ (8分)	・振り返り ・次回の内容予告	・同じテーマでもメディアによってその主張に違いがあること、情報を収集する際には注意が必要があることなどを理解する。	・マスメディアによって自分たちの考えが影響を受けることに気付かせ、次の授業(世論)につなげる。
※次の時間にワークシートを返却し、世論に関する授業を行う。			

(3) 本時の評価規準(「5 評価問題(評価材料)及び評価規準」の(1)を参照)

## 5 評価問題(評価材料)及び評価規準

### (1) ワークシート④【思考・判断・表現】

#### 評価規準

「おおむね満足できる」状況(B)と判断される例
・ワークシート④について、自分なりの理由をもって主張がなされている。
「十分満足できる」状況(A)と判断される例
・ワークシート④について、客観的妥当性のある根拠をもって主張がなされている。
「努力を要する」状況(C)と判断される生徒の例と教師の指導
・ワークシート④について、理由のある主張がなされていない。 →・記述ができない、または取り組まない生徒については、机間指導中に個別にヒントを与える等の支援を行う。

・A評価と判断される生徒も一定数おり、ある程度は2社の記事を読んだ上で自分の意見をまとめて記述することができたと考えられる。本校の生徒の実態に合わせて「譲歩の構文(たしかに～だが、しかし…)」で論じられていればB評価と判断したが、その規準であればC評価となる生徒はほとんどいなかった。しかし、ピアリーディングには参加するものの、ワークシートの記述はほとんどできない生徒(C評価)もわずかながらおり、個別の配慮が必要になる場面もあった。

### (2) 評価問題(メディアから情報を得る(世論を形成する)ときの注意点を、理由とともに答えよ)【知識・技能】

#### 評価規準

「おおむね満足できる」状況(B)と判断される例
・偏った意見ばかりを取り入れないように注意する、ということを解答している。
「十分満足できる」状況(A)と判断される例
・偏った意見ばかりを取り入れないように注意する、ということを理由とともに解答している。
「努力を要する」状況(C)と判断される生徒の例と教師の指導
・解答できていない。→答案返却時に具体的な解説を加えるなどの支援を行う。

(3) ノート（自由記述「単元を振り返って、身に付いたことや気付いたこと」）【主体的に学習に取り組む態度】

評価規準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・具体的に「できるようになったこと」を記述し、自己評価をしている。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・具体的に「できるようになったこと」を記述し、自己評価をした上で、今後学びたいことや自分の学びに向かう姿勢について言及している。
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導
・具体的に「できるようになったこと」を記述できていない。 →記述ができない生徒については、自分のワークシートに「学んだこと」をチェックさせ、成長した部分に気付かせるなどの支援を行う。
・単元を貫く「なぜ政治参加が重要なのか」という問いを、単元の最初と最後に投げかけること（3単元計画(3)を参照）で、自らの気づきや考えの変化を客観的に捉えさせ、ノートに記述させる。その生徒の「変容」を評価する。

6 成果と課題

今回実施したピアリーディングは、本校では普段現代文の授業でも取り入れられている手法であり、生徒は慣れた様子で取り組むことができていた。文意の読み取りに不安のある生徒でも積極的に参加することができ、協働して取り組むことで理解も深まったように感じられた。また、今回のように新聞のコラムや社説などの「文」を読み取る場合だけでなく、図やグラフなどの読み取りなどを行わせる場合にも有効ではないかと考えられる。この手法については、生徒一人ずつがタブレット端末を使用できるようになることも追い風になると思われるため、今後も可能性を探っていきたい。

一方、今回の研究でも大きなテーマとなっている「評価」について、特に「主体的に学習に取り組む態度」をどのように考えるのかが悩ましい点であった。今回は「この単元のみ」を意識して新しい評価規準に沿う評価を実施しようとしたが、「態度」は年度当初からの変化を追わないと評価しにくいものであると感じた。今後どの単元でも通用する、一貫性を持った評価規準・評価方法を検討する必要があると考える。

7 参考文献

- ・教科書『高等学校 公共』（教育図書）
- ・教科書『高等学校 公共』（数研出版）